

誰が「ゲヘナ（地獄）」を生み出すのか？

立教新座中学校・高等学校チャプレン 倉澤 一太郎



この夏は本当に暑い日が続きました。過去形で書いてはいますが、残念ながら暑さは今もなお現在進行形で、チャペルニュースが発行される頃には秋らしい気候になっていて欲しいと願うばかりです。

暑さがまだ本格化する前の7月23日にコペルニクス気候変動サービスは「2023年7月が人類史上最も暑い月となる」と発表し、これを受けて27日にグテーレス国連事務総長は「地球沸騰化の時代が到来した」と語ったことは、その後の猛烈な暑さの実感によって私たちそれぞれの記憶に深く刻み込まれたように思います。

ここ数年は気候に限っても毎年のように夏の暑さが酷くなり、海水温の上昇に比例するかのよう台風や集中豪雨などの風水害が多発し、洪水や土砂災害による被害の大きさも拡大しています。また、降雨がない土地では早魃が、降雨がある地域では降り過ぎて泥濘と化すなど格差も酷く、共に作物の生育に深刻な打撃を与えているほか、海水温の急激な上昇も海の生物たちに大きな影響を与えており、極端な減少や本来生息しないはずの種の異常繁殖を引き起こしています。さらに高気温による異常乾燥は世界各地で山林火災を発生させて、被害は拡大の一端を辿っています。これまでは鎮火さえすれば年月がかかっても緑が戻ると期待できましたが、この先は望めないのではと思わされます。以前の自然環境を取り戻すためには多くの人々の協力が不可欠であり、それには自己利益の確保とは無縁な、未来に向けての無私な投資が必要なのに、自分さえ良ければ良いのだという姿勢が世界中に溢れて阻害しているからです。食料や資源、土地の奪い合いに端を発する戦争は自分の利益確保のために相手に不利益を強制す

る身勝手の集大成ですが、それを引き起こす背景には自己の欲求を優先する私たちの姿勢があると言えます。

またこの夏は世界中のあちこちで暴動や略奪等の庶民レベルの暴力事件も頻発しています。直接的には民族や宗教の違いによるものとされがちですが、その根本は経済的困窮によって心の余裕や優しさを失くした人たちによって引き起こされていると考えます。中東やアフリカなど、内乱や飢饉によって生活が困難になった人々が難民となって他地域へ移動していますが、以前は難民を受け入れて助けの手を差し伸べようとする人が少なからずいました。現在では地球沸騰化の影響で受け入れ先の地域でも作物の不作から食料品の高騰やコロナ禍による経済的困窮が拡がり、多くの人々の心から余裕や優しさが失われ、不満や不安を弱い人々にぶつけるようになっていきます。宗教的動機を掲げていますが、イエスも釈迦もムハンマドも神や仏がそれを良しとするとは教えておらず、弱い人に助けの手を差し伸べなさいと教えています。

地球沸騰化は神の教えに背き、多くの人間が自分の利益や都合を優先してきたことが生み出した結果です。自分たちの生き方が異常気象を引き起こして災害を頻発させ、食糧確保を困難にして経済的困窮を招き、資源の奪い合いで憎悪を深め、蓄積した憤懣を他者にぶつけている現実を自覚し、イエスを通して示された神の求める生き方や交わり方に立ち返らなければ未来はありません。神に従わない者が落とされる「ゲヘナ（地獄）」とは私たち自身が生み出している現実であり、行き着く未来なのです。世界を地獄ではなく天国に変えるためにイエスと共に働くことを神は私たちに求めておられます。